

整理番号	28-4	事務事業名	市道維持管理事業	作成部署	建設部土木事務所	電話	内線760
事務区分	自治事務	法定受託事務	部長職名 齊藤順二	課長職名	高橋 孝一	作成日	平成17年6月
事務事業開始年度		根拠法令等	道路法第8条、第16条、第42条				
〃終了予定年度							
事務事業開始のきっかけ(導入当初の目的等)	都市基盤の根幹を形成する市道の維持管理事業は、快適で安全な市民の生活や経済活動の維持のため、必要不可欠なものである。						

1 計画(プラン)

上位施策との関連(総合計画での位置付け)	章	高い都市機能を持ち、活力にあふれるまち	(第5章)
	節	道路と交通	(第3節)
	施策	市内幹線道路・生活道路等の整備	(第1施策)
目的(ここから成果指標を導きます)	対象(誰、又は何を)	市道を利用する人	
	意図(何をねらっているのか。対象をどのような状態にしたいのか)	安全で快適に通行できる市道の機能維持のため	
手段(ここから活動指標を導きます)	市が行った(行う)事務事業の具体的な実施内容(補助金等の場合は団体等の活動内容)	16年度まで	平成12年度～平成16年度 道路維持作業委託、植樹帯・分離帯管理委託、街路樹剪定委託、路面清掃委託、舗装補修委託、高圧洗浄委託、道路施設修繕など
		17年度	上記業務と同様

2 実施(ドウ)

【事業費の推移】

(単位:千円)

区 分		15年度(決算)	16年度(決算)	17年度(予算)	18年度(予定)
直接事業費	国支出金				
	道支出金				
	地方債				
	その他特財	30,888	29,536	30,400	30,400
	一般財源	165,810	177,049	141,652	141,652
	合計	196,698	206,585	172,052	172,052
人件費(概算)	人数(年間)	2.98	2.98	2.98	2.98
	1人当り年間平均人件費	9,235	9,000	9,000	9,000
	= ×	27,520	26,820	26,820	26,820
総事業費 +		224,218	233,405	198,872	198,872

【事務事業を評価する指標(ものさし)】

指 標	指 標(算式)	指 標 値			
		15年度	16年度	17年度(目標)	18年度(目標)
活動指標 (事務事業の活動量や実績)	市道管理延長(km)	428.2	426.1	426.4	426.4
	草刈業務	210,190㎡	210,190㎡	338,065㎡	338,065㎡
	道路施設修繕件数	350件	478件	450件	450件
	雨水樹清掃(箇所)	6,880	4,353	4,346	4,346
成果指標 (目的の達成度を測るものさし)	市道管理延長(km)	404.9	404.9	404.9	404.9
	草刈業務	210,190㎡	210,190㎡	338,065㎡	338,065㎡
	道路施設修繕件数	350件	478件	450件	450件
	雨水樹清掃(箇所)	6,880	4,353	4,346	4,346
効率指標 (主要活動単位当たりコスト)	1m当たりの維持管理コスト				
	(総事業費÷管理延長)	524千円	548千円	466千円	466千円

3 評価(チェック)と改善(アクション)

事務事業を取り巻く社会環境の変化や今後の予測、他市町村の動向等

本市道については、人口の増加に比例して、年々管理延長が増加しているが、昭和40年代後半からの大規模開発で築造された道路の多くは、いまだ改築されていないため老朽化が著しく、道路機能維持の限界状況になっている。したがって市民からの道路修繕要望は増加する一方で、早急な道路の改修が求められている。

【妥当性の評価と改善の方法等】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
行政関与の妥当性 【市が実施すべき事務事業ですか。市民・企業等での実施可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	道路施設の維持管理であることから、市が行う事業である。	
目的の妥当性 【社会経済情勢や市民ニーズの変化などから、設定した対象や意図は妥当ですか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	道路機能の安全保持であり、目的は適切である。	
手段の妥当性 【現在の手段は適切ですか。他の手段や委託化などの可能性はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入)	道路施設の修繕は、道路の老朽化に比例し、その箇所数及び市民からの苦情件数も年々増加してきている。	道路の改修事業の早期実施が急務である。
受益者負担の妥当性 【受益者負担の適正化の余地はありませんか】	適切 改善の余地あり(改善の方法記入) 該当しない	受益者負担の余地はない。	

【有効性と効率性の評価と改善の方法】

項目	判定	判定の説明や課題	改善の方法
有効性の評価 【意図した成果は上がっていますか】	十分成果が上がっている 概ね成果が上がっている あまり成果が上がっていない 成果が上がっていない	道路施設の修繕は、事故の未然防止など、概ね成果があがっている。しかしながら、道路の老朽化が著しく、修繕箇所も増加してきていることから、それに対応できる道路施設管理が求められている。	道路の改修事業を早急に実施し、道路施設修繕の負担を軽減する。
効率性の評価 【手法は効率的ですか。コスト削減の方法はありませんか】	十分効率的 概ね効率的 やや非効率 かなり非効率	維持管理業務の多くは委託化してきており、手法は効率的である。	老朽化している道路状況に応じた改修を行う。

【事務事業担当部局内優先度】

部局で所管するすべての事務事業の中で、この事務事業の位置づけはどの程度ですか

A B C

4 総合判定と今後の方向性

【1次評価】	判定	今後の方向性や改善方法など
事務事業担当部局の総合判定 【上記3の評価と改善を踏まえ、今後の方向性についての総合判定と改善方法を記入】	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	道路維持管理業務における直営業務については、概ね委託化に移行してきているが、今後委託業務の統合や冬期間の除雪事業を含めた通年委託体制を検討していく。また、今後市道の老朽化は一層深刻化することから、道路の改修事業を推進する。
【2次評価】	判定	今後の方向性等
行財政構造改革推進本部の総合判定	拡大・重点化する 現状のまま継続する 見直しの上で継続する 統合する(検討含む) 縮小する(検討含む) 廃止・休止する(検討含む) 終了	1次評価のとおり